

九州地域における鉱工業指数の基準改定について (概要版)

2024年4月
九州経済産業局
総務企画部調査室

基準改定とは？

- ▶ 鉱工業指数は、基準となる時点（基準年）の平均を100とすることで、異なった時点間における生産量等の増減を比較しているところ、5年に一度、この基準年を変更することとされている。

なぜ基準改定が必要なのか？

- ▶ 産業構造の変化に対応し、鉱工業全体の動きを的確に捉えるために、基準改定を行うことで、構成品目やウェイト等を見直している。
✓ 基準年以降、新たに登場した品目や、全体に及ぼす影響度合いが変化した品目等の状況を、鉱工業指数に反映させる必要がある。

今回の基準改定による主な変更内容

① 採用品目の見直し

- ▶ 2015年から2020年にかけて、生産額が大きくなった品目については新規に採用し、生産額が小さくなった品目については廃止等を実施。その結果、2020年基準における採用品目数は288品目（2015年基準は290品目）となった。※併せて品目の名称変更も実施。

新規品目 (14品目)	廃止品目 (▲10品目)	統合 (▲6品目：11品目→5品目)
✓ 通信用ケーブル光ファイバ製品 ✓ アルゴン ✓ 柔軟仕上剤 ✓ 紙おむつ 等	✓ 太陽電池モジュール ✓ ファクシミリ ✓ たばこ 等	✓ 鍛鋼品・鋳鋼品（鍛鋼品、鋳鋼品） ✓ 重油（A重油、B・C重油） 等
		名称変更（下線が変更後の名称）
		半導体集積回路 → <u>モス型IC</u> 等 【例】半導体集積回路（マイコン） → <u>モス型IC（マイコン）</u> 半導体集積回路（ロジック） → <u>モス型IC（ロジック）</u> 半導体集積回路（メモリ） → <u>モス型IC（メモリ）</u> 半導体集積回路（CCD・その他） → <u>モス型IC（除. マイコン・ロジック・メモリ）</u>

② ウェイトの見直し

- ▶ 「令和3年経済センサスー活動調査」等のデータに基づき、業種別・品目別のウェイトを算定。その結果、2020年基準においては半導体に関連する業種等のウェイトが上昇した。

生産（付加価値額）

ウェイトが上昇した業種

	＜2015年基準＞		＜2020年基準＞	ポイント差
電子部品・デバイス工業	1,359.4	→	1,536.3	(+176.9)
汎用・生産用・業務用機械工業	1,216.8	→	1,352.6	(+135.8)

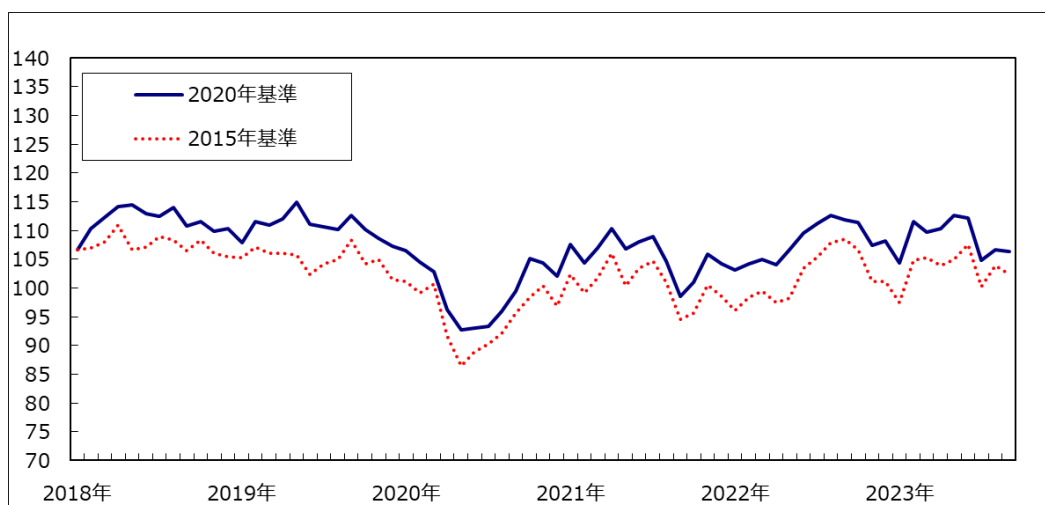
ウェイトが低下した業種

輸送機械工業	1,351.7	→	1,157.0	(▲194.7)
その他工業	903.4	→	803.1	(▲100.3)

③ 指数値の見直し

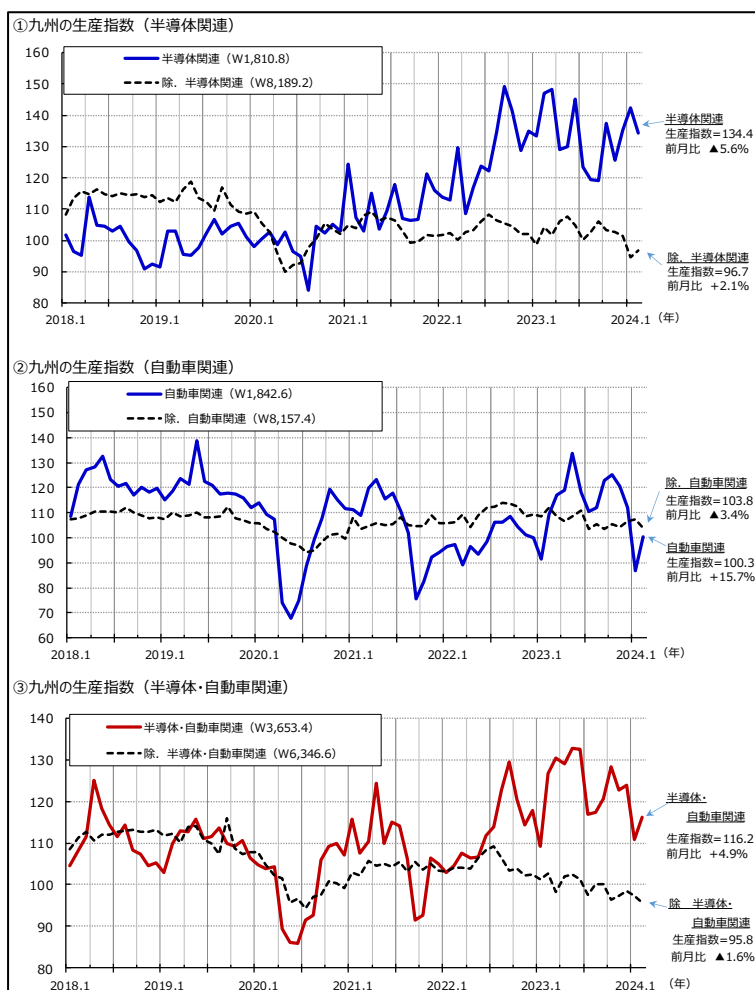
▶ 基準年を2015年から2020年へ改定したことで、指数値は高くなる。

鉱工業生産指数（付加価値額）＜季節調整済＞



参考：公表資料の見直し

▶ 九州の主要産業である「半導体関連」と「自動車関連」の動向をより把握しやすくするために、公表資料（プレス資料）P3に以下のグラフを掲載。



①では「半導体関連」と「除、半導体関連」、②では「自動車関連」と「除、自動車関連」、③では「半導体・自動車関連」と「除、半導体・自動車関連」の推移を示している。